

第5回 鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

日 時 令和2年5月15日（金） 15時00分～

場 所 市共済会館3階 大会議室

出席者 委員9名、関係課・事務局職員6名

欠席者 委員5名

傍聴者 1名

報道関係者 1名

概 要

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

（1） 「鳴門市公立幼稚園のあり方に関する説明会」について

- ① 説明会の概要について、事務局から説明を行いました。
- ② 説明会を通じた論点について、事務局から説明を行いました。

（2） 意見交換

（会長）

全幼稚園において説明会を行い、保護者や地域の方々からいただいた意見を事務局がまとめているが、これについての質問や意見などはないか。

（委員）

市として、今の段階で令和4年度に幼稚園に入園する幼児の希望調査は行っているのか。

（事務局）

現在はしていない。通常であれば、毎年12月に入園希望を募るようにしている。今までは園区があったので居住地の幼稚園に入園希望を出していたが、今年については変更が見込まれるため、早めに保護者に対して通知や広報をし、今後の入園募集に備えたいと考えている。

（委員）

入園希望について、一人ひとりに通知がないことで、よく分からない人もいると思う。今後、システムが変わっていく際には、もっと周知が必要であるように思う。

(事務局)

以前は、年少児に該当する学齢になれば市から通知をしていた。しかし、他の就学前教育・保育施設と同じ形で手続きをするという観点から、5年前に通知をしないことと変更した。

(委員)

令和3年度入園募集の時期が、幼稚園現場にとっても一番の関心事である。個人的には、事務局案のように、令和3年度も12園で入園募集を行うことが最適だと考える。他都市では、入園募集を打ち切ったことで、年長児も他園に移り、急遽閉園を前倒しにした事例があった。早めに、保護者への説明をした上で令和3年度の入園募集を行うことで、保護者の選択肢が広がり、緩やかな再編となる。

(事務局)

令和3年度に全12園で入園募集を行う際には、園区を外す必要があると考えている。中間報告でも園区を全市とすることについて触れているが、最終案では令和3年度には園区を外すと記載しなければと考えている。

(会長)

事務局の論点整理を中心に、この後、皆さんにご意見をいただきたい。

会議資料の再編後の幼稚園配置図では、再編後の設置園を中心に半径3キロの範囲を円で表しているが、範囲から外れて空白になっている地域がある。このまま放っておいていいのかどうか考える必要がある。

今回の説明会で出された課題について、解決できるもの、できないものがあると思うが、保護者の立場、学校・園の立場などから委員の皆さんのご意見を伺いたい。

(委員)

地元の幼稚園を残してほしいという意見を、地域の保護者から聞く。再編が必要なことは理屈では分かるが、今まで幼稚園が地域と深くつながってきて、地域が大切にしてきたという経緯から、心情としてとてもつらく割り切れない思いである。

(委員)

資料にある説明会概要を読んで、それぞれの地域性や幼稚園が地元で愛されてきたことがよく分かる。最初は不都合が生じたり、心情としてもつらいことがあったりすると思うが、それでもこの機会に改善していかなくてはいけないのではないかと思う。

(委員)

資料の幼稚園配置図を見ても、大麻町堀江地区に空白地帯ができるのは保護者にとって困ると思う。ただ、民間の認定こども園等もあるため、それらとの兼ね合いの中で判断するべきであると考えている。

(委員)

令和3年度入園募集を考えると、計画を急がなくてはいけないと思うが、コロナウイルス感染症の影響で説明会に来られなかった保護者もいる。幼稚園再編に興味がないわけではない。とくに利用定員を超えた場合に、どのような取扱になるのかなど、コロナウイルス感染症が落ち着いた際に、もう一度説明会を行うべきではないか。

(委員)

鳴門市内では撫養地区方向に動線があり、西に行くことは少ないように思う。子どもを預けるとなると、規模が大きく利便性の高い第一幼稚園に集中してしまうことを危惧している。

また、資料の地図を見て、空白になっている堀江地域が特に気になる。地域性、地域の文化、歴史的背景などの意見が、堀江両園の説明会では出ていたようだ。これらのことに対する方策を考えなければならぬと思う。

そして今回の再編が、教職員のための再編のように聞こえることがあり残念に思う。そうではなく、子どもたちのための再編であるということをしかりと押さえていただきたい。

(委員)

説明会での保護者の意見などから、「保育」と「教育」が分けて考えられていると感じる。保育施設である保育園やこども園は「教育」していないということはない。「保育」の中に「教育」がきちんとあり、つながっていることをもっと伝えていかなければならぬと感じた。保育施設としても課題と考へ、アピール等をしようとしているが、まだ十分ではないのかもしれない。

また、モデルカリキュラムをつくり就学前教育・保育の質の向上や連携を深めるとしていることについて、管理職などは連絡協議会などのつながりはあるが、合同での研修や小学校教員との交流などのように、現場の保育者と先生方との交流・連携の場を作ることが必要であると思う。実際にどのように連携や交流を行うかなどの具体的な方策を考えなければならぬ。

保育園・こども園には市外などの広域から通園している園児もいるが、その保護者から、小学校入学時には意外と苦にならず、すんなり適応できるとの話も聞いている。

(委員)

地域の方から、どうして幼稚園を再編し無くすのかという話をよく聞く。

今後、それぞれの園の特色を大切にすることや、幼稚園の地域コミュニティの役割なども考えていかなければならぬ。

また、災害時や今回のコロナウイルスの関連で考えると、園児に指導や消毒をさせる際にも先生の人数が必要になる。教員の募集についてもよい方法を考える必要がある。

(委員)

現在は中学校の校長であるが、前任校では小学校長と兼任園長であった。幼稚園に初めて関わり、先生方の過酷な勤務の状況がよく分かった。

園児数の適正規模や教職員の適切な配置を考えるに当たって、今回の再編は必要であると思う。その上で、よりよい教育力を持った幼稚園を作っていくことが大切であると思う。

前回会議概要の会長の言葉に「教員にとって働きやすい幼稚園が、子どもたちにとってよりよい幼稚園だ。」というものがあつた。本当にそのように思う。先生方の勤務状況を改善することで、よりよい教育ができる環境作りができる。

また、事務局の論点整理にもあつたが、空白地帯を無くし幼稚園教育の機会を保障することと、利用定員を超過した場合の取扱について、きちんと対応する必要があると考える。

(会長)

皆さんのご意見や、説明会での地域からの意見を聞き、まず第一に堀江地区をどうにかしなければいけないと思う。第一幼への偏りが考えられることや、民間の施設との兼ね合いもあるが、審議会として考えなければならない問題である。

二つ目に幼・保・こ・小との連携の形を作ること。

三つ目に、今回のコロナへの対応を一つとっても、たくさんの先生がいた方が目が行き届き感染リスクが少ないということ。

最後に、地域のつながりと特色ある幼稚園づくりについて、今回の再編計画で園区がなくなったとしても新しい特色をもった魅力ある幼稚園にしていくということ。

これらのことを踏まえた上で、次回には、再度事務局案を示してほしい。

(委員)

全体的な流れとして、やはり時期が気になる。また、それに対応しうる教職員が必要になってくる。

そして、園区を外すことについて、幼稚園での子ども同士の関係性が小学校につながっていかないことが、不安材料となって、小一プロブレムなどに影響するのではないかと危惧する。どのようにすれば子どもたちの関係性を小学校につないでいけるのかということが、再編後の幼稚園教員の課題となってくる。

(会長)

鳴門は「公立」の幼稚園が充実している。これは他ではなかなかないと思われる。他県では、様々な就学前施設から小学校に集まってくるのが普通である。今後、保護者がどのようにして幼稚園を選んでいくのか、新しいチャレンジではないかと思う。

事務局には、次回に今日の意見を反映させた最終案を作ってもらいたい。

(事務局)

本日のご意見については、事務局が論点整理として考えていたものと、ほぼ重なっていたように思う。次回には、今回のご意見を踏まえた最終案を提示させていただき、委員の皆様にご審議いただきたい。

(会長)

鳴門市は、今回の再編計画について全幼稚園において説明会を行ったり、審議会においても何度も審議を重ねたりしている。これほど真摯に再編計画に取り組んでいるところはない。よりよい再編計画になるようにしていただきたい。

{会長}

民間の就学前施設にとっては、鳴門市の公私の関係はどうか、当事者である委員にも伺いたい。

(委員)

保育園、こども園、幼稚園、小学校との交流は近隣他都市と比べると、連携ができている方であると思う。今回の再編に際し、とくに就学前教育・保育施設同士や小学校、地域、保護者とのつながりの大切さを考える。

また、現在のコロナ禍の中で、運動会などの行事の見直しなどについても、子どもたちにとって必要なかどうか、今後どのような形で行っていくことがよいのかということが課題となってくる。教育のあり方についても続けて考えていかなければならない。

(会長)

何を残し、何を行うのかということが、次のポイントになってくる。行事のあり方やつながり方についても考えなければならない。

ともあれ、現在の幼稚園を取り巻く状況を受けて、今行わなければいけないことは、まず再編により幼稚園の学びの環境をよりよく整えることであるが、今日の議題のように課題はまだある。これらのことについて、市教委で再度練り直して最終案に反映していただきたい。

4. その他

第6回の審議会日程等についての確認

今後事務局にて、説明会でのご意見と今回の審議内容を踏まえて中間報告を修正し、最終案を作成する。そして、その内容について審議する第6回審議会を、6月3日に水道会館にて開催することを確認しました。

5. 閉会